

令和4年度 静岡県養護教諭夏季研修会
養護教諭制度80周年記念式典が開催されました!

令和4年8月19日(金)

静岡県コンベンションアーツセンター
グランシップにて参加

各校オンラインにて参加



新型コロナウイルス感染症の感染リスクを抑えるため、会場参加とオンライン参加のハイブリッド開催としました。



小・中学校、高等学校、特別支援学校の養護教諭が参加しました。



基調講演「我道長悠悠」

講師 静岡県養護教諭研究会第10代会長
全国養護教諭連絡協議会名誉顧問 林 典子氏



「根拠」を
持っていますか

「観」を
持っていますか?

「マネジメント能力」を
持っていますか

「気配り」が
できていますか



養護教諭は、すべての対応に根拠を持って行動する。

子供の実態や社会の実態をとらえ、根拠に基づく対応が求められる。

自分の日々の対応には、根拠があるか。判断・行動したことに理由があるか…振り返ってほしい。

我々の道（養護教諭の道）は、永久に変わらず、長く久しく続いていく…

子供たちや教職員が人生の中で出会う養護教諭は限られている。
一人の養護教諭の活動や行動が、子供たちや他教員にとっての養護教諭という職へのイメージを形作る。養護教諭一人一人の行動によって、この職への理解者が増えるかもしれない。

私たちは、養護教諭の歴史を作っているという自覚を持ち、努力を続けていく必要がある。



シンポジウム 「これからの養護教諭に求められる力」

コーディネーター 静岡大学教育学部教授 鎌塚 優子 氏

子供たちを取り巻く環境が「深刻化・複雑化・多様化」してきたと言われ始めてから20年以上が経つが、最近ではさらに多様な生き方、多文化共生などへの対応、ヤングケアラーの支援など新しい課題が山積している。

本シンポジウムでは、そうした多様な子供たちを支援していくために、養護教諭とは異なる立場や職種から養護教諭を応援してくださっている方々に、養護教諭に期待する思い等を提言いただきたい。

袋井市教育委員会教育長 鈴木 一吉 氏

多様な子供たちに対応し、守り育てる役割がある学校だが、学校の当たり前には違和感が多い。養護教諭の立場から感じた違和感を積極的に発信してほしい。職種・校種を超えて交流を深め、子供たちの「今」だけでなく先を見据えた教育につなげてほしい。



浜松市立豊西小学校校長 田中 公子 氏

これまでの自身の経験から伝えたいことは、養護教諭は、経験年数に関わらず一人前として期待されるということ。また、管理職の立場としては、「丁寧な初期対応」をお願いしたい。報告・連絡・相談を丁寧に行い、密に情報共有ができる養護教諭であってほしい。



スクールカウンセラー
日本レジリエンスエデュケーション協会代表理事 山本 千香子 氏



養護教諭は子供たちの人生を支える職である。子供への対応は一時的な手当に見えて、その対応の過程がその子の人生に影響を与えるものである。

一人職だからこそ個性や強みを発揮しやすい。子供たちの人生を支える職務に誇りを持ち、頑張ってもらいたい。

Q. 児童生徒の見立てを深めるには、どうすればよいでしょうか。

Q. チームレジリエンスを高めるには、どうすればよいですか。



会場とオンライン参加者のチャットから質問を受け、意見交換をしました。

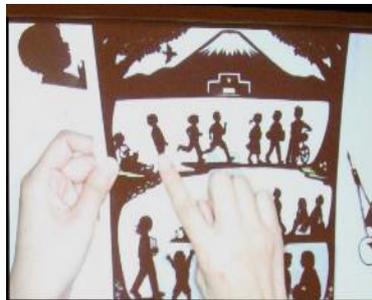
アトラクション

紙切り作家 水口 ちはる氏による切り絵パフォーマンス
静岡県立科学技術高等学校 吹奏楽部による演奏



記念式典オープニングと、切り絵パフォーマンスのBGMには、**静岡県立科学技術高等学校 吹奏楽部**による素晴らしい演奏が彩りを添えてくれました。

養護教諭制度80周年を記念した作品を作っていただき、一筆箋とクリアファイルにして会員に配付されました。



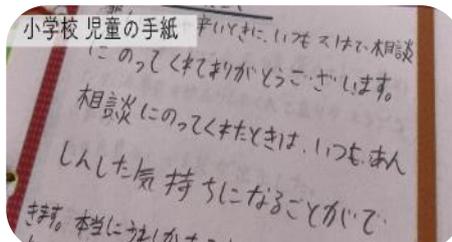
養護教諭の歴史を振り返り、未来へつなぐ

子供たちの幸せのために、これからも学び続けていきたいと思いました。



先輩方の日々の努力の積み重ねがあって、今の私たちがあると実感しました。

養護教諭の原点に立ち返り、必要な力を磨いていきたいと思えます。



たくさんのエールをいただきました。

仲間とともに学び、実りの多い充実した一日となりました。